

2024年度 まことこども園 自己評価公表シート

1・園の教育保育目標

「優しい思いやりのある子」

「明るい元気な子」

「何事にもがんばる子」

を教育保育目標とし、乳幼児期にふさわしい環境の下で、友達や保育者と楽しく充実した生活を営み、そして人間として生きる力の基礎となる、豊かな心、意欲、態度を育てること、すなわち『こころの育ち』を支えることを本園の目標としています。

2・2024年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した、園評価の具体的な目標や計画

保育棟

乳児期における愛着形成と、安心した生活を送り情緒の安定を図る。発達の過程をよく理解し、一人一人に合った保育を行う。

幼児棟

食を大切にし、よく身体を動かすことで、病気に負けない身体・体力作りをする。友達との関わりを楽しみ、意欲を持って何事にも挑戦できる環境作りを行う。

職員

研修等に積極的に参加し、より子どもたちを深く理解出来るよう、積極的に学び知識を養う。保護者との信頼関係の構築に努める。

3・評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
愛着形成を基本とし、子供たちが安心して毎日登園出来るよう、一人一人の状況をよく把握する。	A	毎朝、保護者との会話や、送られてくる家庭での様子を確認する事で、一人一人の状態に寄り添った保育が出来ている。子どもの発達段階を理解、把握し個々に合った保育を展開する事で、意欲的に生活出来ている。
食事や運動を基本とし、日々の保育の中で友達や保育者との関わりを楽しむ。子どもたちの意欲を引き出し、音楽・造形・英語など何事も楽しむ。	A	おいしい自園給食をたくさん食べ、戸外でたくさん遊ぶことを基本としている。職員も積極的に戸外に出て子どもたちと遊び、関係を築いてきた。新たにリトミック指導を取り入れ、意欲・好奇心を育む努力も出来ている。
職員の資質向上の為に、研修等に参加し、乳幼児理解に努める。	B	積極的に研修に参加し、自己研鑽に励んでくれた。研修の内容はレポートにまとめ、職員会議で発表、共有をした。各分野（食育や安全等）の担当になってもらい、多角的に園内を見られるようになった。

怪我、事故、災害時には職員全員が行動できるよう、安全に関する項目の共通理解を図る。また、園内環境整備にも目を配る。	A	災害時に迅速に動ける様、園内で研修は行っている。幼児棟・保育棟合同で行う事も必要である。毎年行っているAED講習では個々が自信を持って使えるレベルでないといけないため、まだ不十分であり、継続して研修が必要だと感じる。
保護者との信頼関係の構築に努める。	A	お迎え時や参観日、行事を通して保護者との信頼関係を深めている。また、ホームページのアルバム欄の更新回数を増やす事で園での様子を更に分かりやすく伝えられた。年度末に行う関係者評価の意見を基に改善できる部分は改善していきたい。

4・園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	・職員が研修に積極的に参加した事で、色々な分野の知識を吸収し園に還元してくれた。 ・今年度も園児の急な病気や怪我に関して迅速に行動し、医療機関にスムーズに引き継ぐことができた。大きな事故もなく無事に終えられたのも、研修・訓練を行った成果であり、指導案作成から保育までが一貫した流れで行う事が出来たからだと感じている。また、子どもの情報を全職員で共有する事で、トラブルの際には迅速な動きが出来ている。 ・前年度末行った施設関係者評価を基に修正・改善を行った。卒園式をライブ配信するなど、新しい事にも積極的に取り組むことができた。保護者の方が利用しやすい点も重要ではあるが、子どもたちにとって、意味のある改善ができる様、今後も心がけていきたい。 ・全保育室・お遊戯室に見守りカメラを導入した。子ども同士のトラブルや目が離れた時の怪我など、録画を見ることで解決する事が出来た。

5・今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全・衛生面の強化	遊具・保育室等、環境の見直し・点検(安全面に関して)。急な病気・怪我への対応を全員がスムーズに出来る様、学ぶ機会を増やしていく。
職員の自己研鑽	自身で学びたい保育の研修への積極的参加。研修で得た知識・技能の共有。消防署との連携（AED使用講習等）。
子育て支援の強化	子育て支援の重要性が年々高まっている中、乳幼児期の親子が安心して集まれる居場所になれる様、今後も様々な催しを企画していく。低年齢の園児には保護者参加型の参観日を設け、親子で過ごす時間も大切に考えていく。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が十分でない
D	取組が不十分である